

2020 北海道特別支援教育研究協議会



北特研だより

第3号 令和3年3月16日

発行 総括事務局

北海道札幌稲穂高等支援学校

Tel.011-695-6922

「新しい時代を見据えた教育活動・研究活動にむけて」

北海道特別支援教育研究協議会 事務局長 田中敏春
(北海道札幌稲穂高等支援学校 教頭)

本研究協議会は、今年度、第19次研究主題「自分らしく生きるために、主体的・対話的で深い学びを通じた指導の在り方はいかにあるべきか」のもと、2年目の研究推進の年度でした。

しかしながら、今年度は今も続く新型コロナウイルス感染症感染防止対応のため、全特連の全国大会（長崎大会）はじめ、北特研においては、2年に一度の貴重な学びの場である全道研究大会（札幌稲穂大会）を中止せざる終えなくなりました。このような状況は、本研究協議会は発足して以来、経験したことの無い苦渋の決断であり誠に残念ではありましたが、全道各地区の会員の皆様のご理解をいただき対応させていただきましたこと、改めて感謝いたします。

現在、北海道も含む全国において新型コロナウイルス感染症の感染状況は、引き続き予断を許さず、この状況は、今後もしばらく続いていくと思われまます。このことは、ご存じのとおり学校教育にも大きく影響していきます。児童生徒の健康・安全を第一に、学校の新しい生活様式を踏まえ、先が見通せないこれからの時代に、主体的に自分らしく生きる子どもたちを育成するためにどのように指導すべきか、教育活動の質的向上や工夫などが求められると考えまます。

このことを踏まえ、本研究協議会の在り方について、組織運営・研究推進など、従前の在り方に戻すのは難しく、全特連事務局ともこれまで以上に連携を深めながら、新しい時代に求められる新たな道・新たな方策を見つけていかなければならないという難題に直面しています。

本校が総括事務局として2年間業務を推進してきましたが、十分な研究事業の推進が行えなかったとともに、前述の課題に対しても明確の方策を打ち出せなかったことに対し、お詫びするとともに、会員の皆様のご理解、御協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

次年度から、星置養護学校が総括事務局の任を担うこととなりますが、引き続き、皆様のご支援をいただき、本研究協議会の発展と充実が図られることに期待をしております。

よろしく願いいたします。

「令和3年度役員研究協議会議案書（草案）」と「令和3年度研究大会運営の手引き（案）」
 について、各地区の質問、意見及び総括事務局からの回答と提案

2月に各地区において行われました理事研究協議会において、会員の皆様から御質問、御意見をお寄せいただきました。より魅力的で、日頃の実践に役立つ研究会にしていきたいと思っておりますので、議案書草案、研究大会運営の手引きを再度、御熟読いただくようお願いいたします。

「令和3年度北特研 役員研究協議会議案書（案）」について

内容	各地区から		総括事務局からの回答、提案
令和2年度 事業報告	・稲穂での全道大会開催できず残念だった。	道 央	
令和2年度 決算報告・監 査報告	・全特連への分担金がコロナ禍での規約変更になり、どのように変わったか知りたい。単純に昨年度の一律半額なのか、学級数の負担が変わったのかなど。	道 央	<ul style="list-style-type: none"> 全特連規約 付則第1条、規約第4条による団体会計の分担金について、新たに条項が追加されました。「4 天候等不測の事態があり、事業計画等に著しく支障が出ると判断された場合は、理事会の判断により、その一部もしくは全額を免除する場合がある。」この条項に基づき令和2年度は学級数×300円から、学級数×150円になりました。令和3年度も同様の扱いとなる予定である旨の連絡は、令和3年2月に実施された全特連常任理事会の報告にて受けております。
令和3年度 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> （2）各地区研究大会の部分の豊明の学校名が間違っているので訂正をお願いしたい。 会員の参加を促すためにも、入会のメリットと魅力を伝える広報活動は大切。 会報やホームページを活用した各校の研究の取組についての情報交換も日常的にできるとよい。 コロナ禍2年目なので、今年度の教訓を生かして活動の全面中止ではなく、継続可能な研究活動を追求してほしい。中札内の全道研修会の様子も配信してほしい。 ワクチン接種が完了していないことが予想されるので、全道大会についてもZoomによる開催が望ましい。 	道 央	<ul style="list-style-type: none"> 訂正いたします。 今後も北特研だよりの発行やHPにて取り組みを進めることが大切と考えます。 今後も検討が必要です。 今後も検討が必要です。

令和3年度 会計予算	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない中、各地区大会が以前のような形では明らかに実施できず、中止あるいは遠隔会議システムを用いた方法などが考えられる。この場合に、会員会費を通常に求めても、会員にとってのメリットが何か説明が付かない。今年度同様の措置はできないか、あるいは会費は減額するべきと考える。 地区理事会だけでなく、役員研究協議会においても遠隔会議システムで行うべきと考える。 コロナ禍の中で年会費3,000円に見合う内容の研究大会の企画等がなければ、会員数の大幅な減少が予想されるのではないかと。3,000円が妥当な金額であるかどうか、検討が必要ではないかと。 コロナ禍、十分な研究活動（充実した地区大会、研修会など）の保障が難しい中、「魅力ある北特研」への加入動機は低迷することが懸念されます。研究集録の還元がなくなるとなるとおさらです。何か「魅力」を発掘しないと。 コロナ禍での研究大会の開催方法や内容と会費（金額も含めて）とのバランスについて、再考の必要があるのではないかと。 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 現在も道東地区大会兼全道研修会を含めて、各地区大会の実施方法については各地区理事校を中心に検討をいただいているところです。今後も検討していく中で、必要な経費等を鑑みた会費の設定と会員募集を行うことが必要となります。リモートでの実施等オンラインでの大会を行うのであれば、そこに一定の経費が必要となることから、大幅な減額をしつつも、会費を徴収することは必要と考えます。また、研究紀要を書籍とするかデータ化するかによっても経費が変わります。今後の地区大会実施の方向性を見定めながら会費設定、会員募集を行っていくこととなります。 ※全特連常任理事会において令和3年度の方向性が示されました。各地区大会（北海道地区の大会という意味で令和3年度については道東地区大会兼全道研修会が相当します）は、紙面での実施を含めて実施する、また研修集録を作成する、ことが示されました。
確認事項について	<ul style="list-style-type: none"> 全国大会に向けての体制作りお疲れ様です。 全国大会を視野に入れたローテーションを検討していただきありがたい。 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度については紙面開催が確定しておりますが、令和4年度以降については未定の状況です。新型コロナウイルス感染症の感染状況によって変化することも想定されますが、実施する方向で準備を進めていくことが必要と考えます。
第20次研究計画	<ul style="list-style-type: none"> 適切な研究計画である。 真に「令和の日本型学校教育」の構築、コロナ禍での実りある研究活動の在り方を探る研究ができるとよい。 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降も研究活動を進めていただきますよう、よろしくお願いたします。
会則・細則	<ul style="list-style-type: none"> 12ページ第19条の学校名の略し方を統一してはどうか。（高等養護が高養なら高等支援は高支など） コロナ禍での地区理事研究協議会や研究大会の開催を考えると、道央地区の学校数が多いので、2つに分けてはどうか。（例えば義務校と単置校を分けるなど） 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 今後検討いたします。 過去にも同様の議論があったと記憶しています。分けることによるメリットとデメリットがあることから、今後も検討が必要と考えます。
令和3年度 会員助成、研修会助成	<ul style="list-style-type: none"> 開催された場合、コロナ禍、会場校への参加は難しいと思うので、ホームページやその他の方法で情報共有したい。 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 各校における研修会の開催状況や開催計画について、今後も感染症対策を前提にした取り組みが必要なことから、予算計画の状況に応じて助成金の設定を行う必要があると考えます。
資料	<ul style="list-style-type: none"> 会員数の現状維持を願うばかり。 	道央	<ul style="list-style-type: none"> 各校において、北特研の意義と維持に向けた働き掛けをよろしくお願いたします。

「研究大会運営の手引き（案）」について

内容	各地区から	道央	総括事務局からの回答、提案
「研究大会運営」の手引き（案）	<ul style="list-style-type: none"> 現在の区域割では、道央地区が他の3地区の2倍の学校数となっている。コロナ禍、集団が大きすぎるため「密」を避けた研究活動は当分難しいと思う。地区大会を2カ所に分散して行うなどの改善策の検討が必要。 コロナ禍での地区理事研究協議会や研究大会の開催を考えると、道央地区の学校数が多いので、2つに分けてはどうか。（例えば義務校と単置校を分けるなど） 学校名の略し方を統一してはどうか。（高等養護が高養なら高等支援は高支など） 		<ul style="list-style-type: none"> 例年議論されている状況と思われる。どのような形で分けるべきか、また、そのことがもたらすメリットデメリットを検討いただく必要があるかと思えます。引き続き、道央地区理事会、分散総会等での議論をお願いいたします。 今後検討します。
令和3年度 各地区研究大会について（案） *コロナ対応、開催方法等	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの地区において、現在進行形で地区大会開催に向けたご検討をいただいているところです。詳細が確定したのちにお知らせいたします。 		

全国大会の御案内

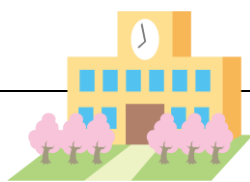
第60回全日本特別支援教育研究連盟全国大会（和歌山大会）

- 主題 「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」
～一人一人の教育的ニーズに応じる教育の充実を求めて～
- 期日・会場 紙面開催
- ※詳しくは、全特連ホームページを御覧ください。



各地区研究大会の御案内

- 各地区ともに、現在もどのような形で研究大会を行うべきか検討中です。新年度あらためてご案内させていただきます。



総括事務局として2年間「北特研だより」を発行させていただきました。会員の皆様の御協力をいただき何とか発行することができました。感謝申し上げます。

来年度、総括事務局は、北海道星置養護学校に移管しますが、どうぞ今後とも北特研だより作成への御協力等よろしくお願いたします。

